

Procyon で強い線の振る舞いを見る

1. S P

UVES を】 基本に、ELODIE を若干使用

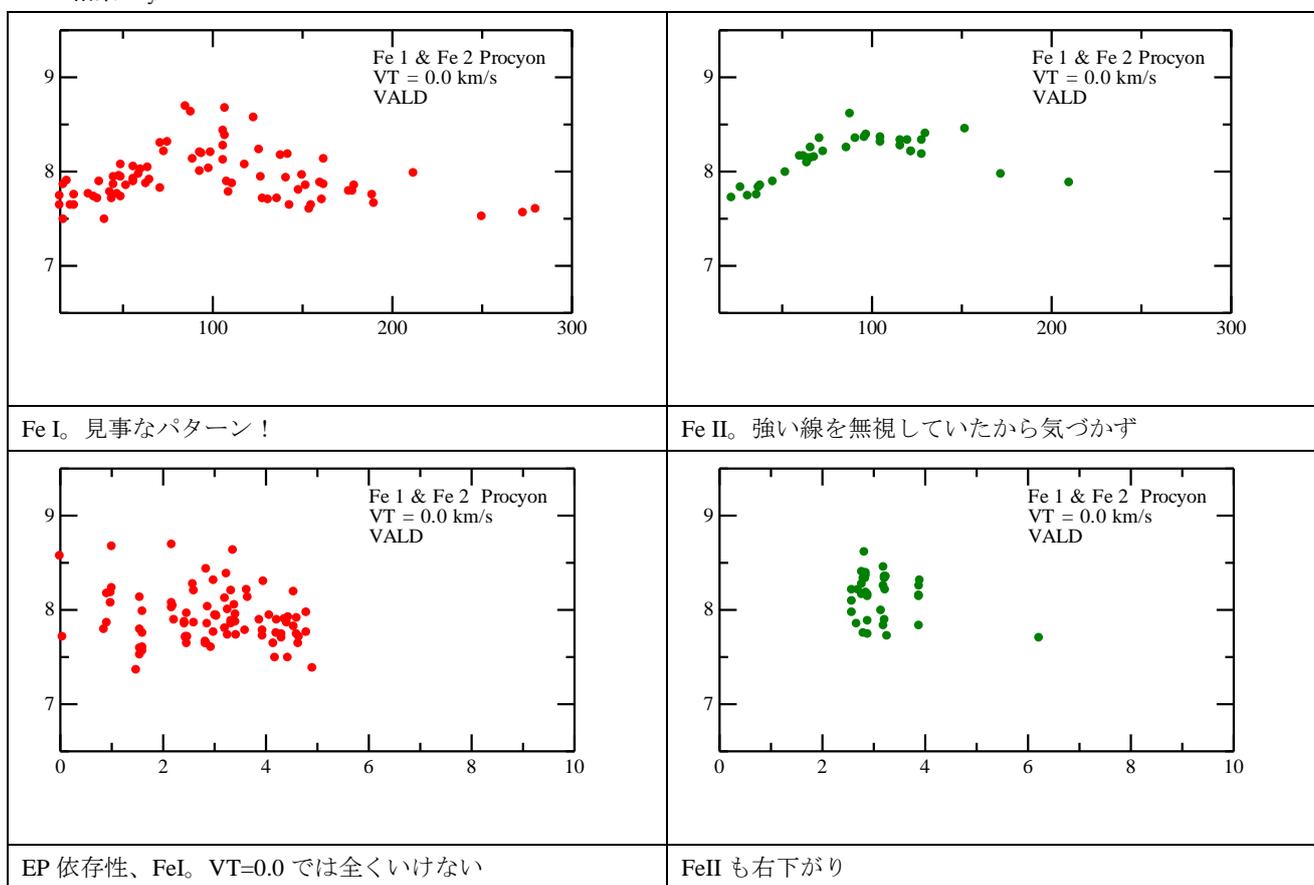
2. 線リスト&等価幅

FeI/II をこれまでリストの中からピックアップして再測定

3. モデルパラメータ

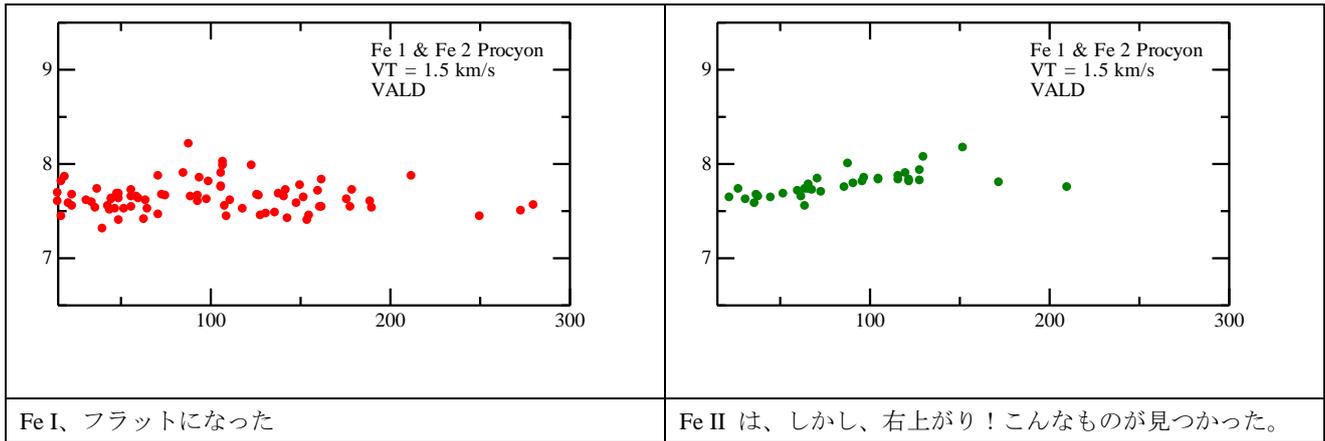
若干高めか。 $t06650g400x+000m0$

4. 結果 $\xi_t = 0.01$ km/s



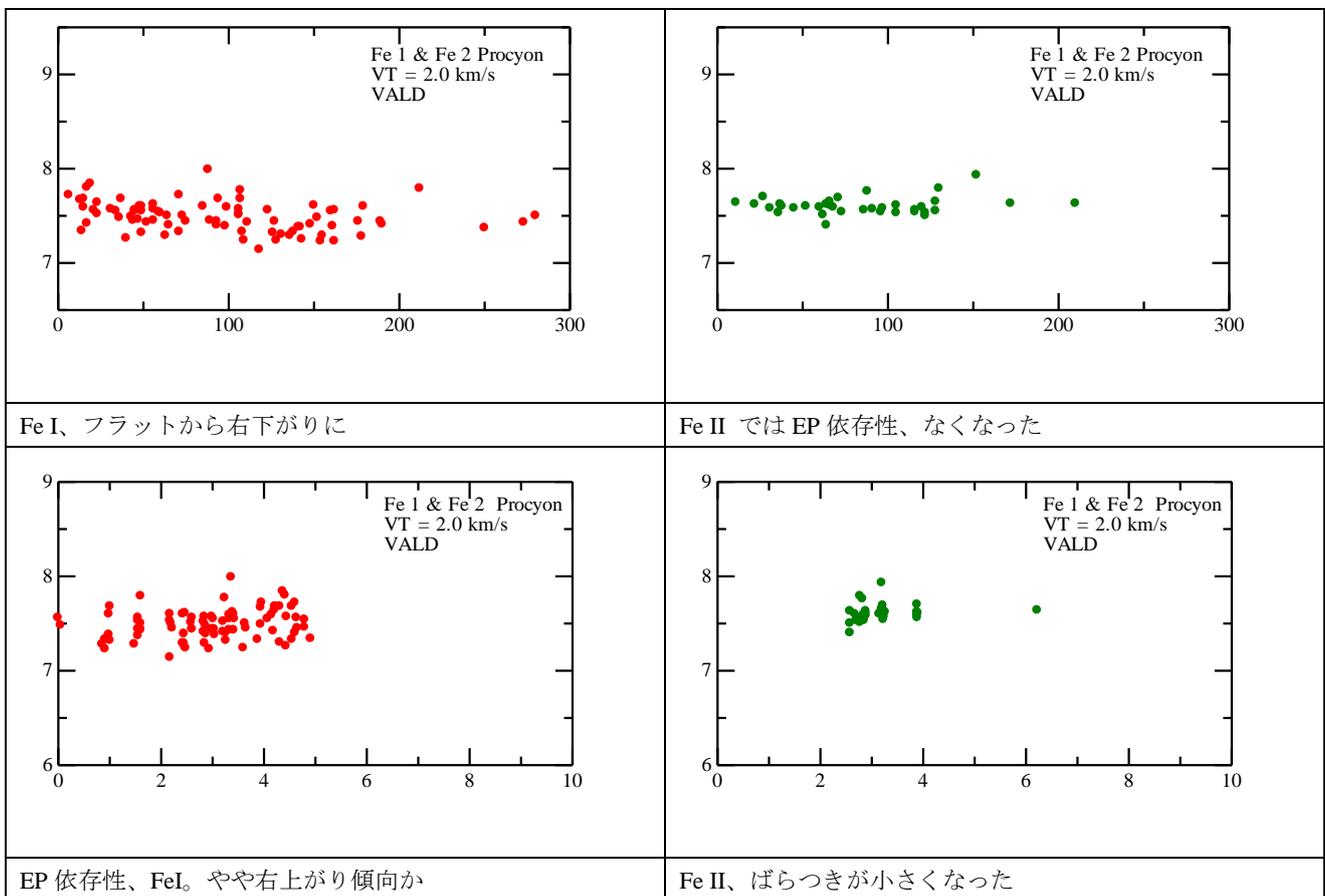
次ページで見るように、6650K では FeI/II で振る舞いが異なることが見えてしまった！
有効温度のせいだけ？

5. 結果 $\xi_t = 1.5 \text{ km/s}$



6. 結果 $\xi_t = 2.0 \text{ km/s}$

上より少し上げてみた。Fe I/II で依然、合わない



7. 最終結果

ここでの目的は、通常星における強い線の（等価幅、元素量）関係が mCP のそれと同様の傾向を示すかどうかを見ることだったが、強い線ではマイクロ乱流速度が効かないという同じ傾向が現れており、この目的は達成された。

加えて、Kurucz の width9 のダンピングの扱いが決しておかしなものではないことも確かめられた。また、そのパラメータも決して奇妙なものではないことも。